

上越教育大 学校教育 佐藤 悦子

目的 前回までは人体の腰部形態、特に偏平度、周径差に注目し、スカートのフレアー効果との関係を明らかにした。本報では、フレアー分量(裾まわり寸法)の異なるフレアースカートを作成し、どのようなフレアー効果を現わすかを把握するために、着装時のすそ形状とシルエットについて検討を試みた。

方法 試料には綿・ウールを選び、スカート丈(60cm)を一定とし、フレアー分量をW寸法の2~5倍量(4種)とする4枚はぎフレアースカートを作成した。製図パターンは同心円作図法を用いた。これらスカートを婦人用人体に着装させ、フレアーが形成された時のすそ形状・シルエットを実測及び写真撮影した。また、同試料パターンの試料片(1/4スカート分に相当)について、W寸法を円とした円筒型の上部1/4円周上にセットし、形成されたすそ形状とシルエットについても比較を行った。フレアー効果は、ノードの平均波高、波高間角度・変動率、ノード数、すそ角度等の項目を測定することにより検討した。

結果 1/4スカート試料片におけるフレアーの形状では、スカートのノード数と比較すると少くなり、すそ形状はフレアー分量の増加とともにすそ広がりになっている。スカート着装時におけるフレアー分量の違いは、シルエット上明確な差は認められないものの、すそ形状においては、フレアー分量の増加にともない、ノード数が増加し、また平均波高(各ノードの山の高さの平均)は増加傾向を示した後、一定あるいは減少傾向を示すこと等が得られた。

1) 佐藤、石七; 家政学会誌 Vol.36, No.10 P712 (1985)